

# 平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	沿岸水産資源の持続的な利用の推進及び新漁場等の調査（底びき網調査）			
事業年度	平成 24～26 年	事業費 財 源	9,122 千円 (国) (-)9,122(諸)	担当者 漁業資源課 大河俊之、堀田敏弘、梶 達也
<b>【背景・目的】</b> 重要漁業種類の一つである底びき網漁業は、現在、厳しい経営状況にあり、漁獲対象資源が「いま、どうなっているのか」と「なぜ、増えたり減ったりするのか」を明らかにすることが求められている。本調査は、トロール調査や最新の海洋観測調査が可能な調査船「土佐海洋丸」による調査を中心に底魚資源や漁場の状況を把握することを目的とする。				
<b>【事業の概要】</b> 平成 24 年まで、本事業は小型底びき網漁場に注目し、トロール調査とその場所の物理環境を調べることによって、生物に好適な条件を探索するとともに、小型えび類（以下、小えび類）を中心とした重要漁獲対象の資源モニタリングを実施した。 平成 25 年以降は、これまでの小型底びき網漁場における調査を継続しながら、調査海域を拡大し、沖合底びき網漁業に関する調査も行う。				
<b>【全体計画とこれまでの成果】</b> 1. 調査船による底魚資源の分布とその要因に関する調査 トロール、稚魚調査用桁網、物理環境調査（H.24～26、他調査データも使用） 2. 重要魚種の資源調査 小えび類：市場調査、漁期前の用船調査による漁況予測（H.24～26） 底びき網漁業の重要漁獲対象種：資源評価調査委託事業（ハモ、ヒラメ）や栽培漁業推進支援事業（ヒラメ、クマエビ）の一環で市場調査、幼稚仔調査による資源生態把握とモニタリングを実施 対象海域：底びき網漁業の主体である高知市、須崎市、黒潮町沖 成果：小型底びき網漁場を含む生物及び物理的データを蓄積するとともに、小えび類の資源状況と漁場による違いを明らかにした。また、結果の一部については、関係漁協等へ報告するとともに、資源管理方法について助言した。				
<b>【25 年度計画】</b> 1. 調査船調査 ・高知市～黒潮町沖水深 30～300m のトロール調査による底魚資源分布の把握（隔月） ・高知市沖での小型桁網調査（毎月） ・1 及び 2 調査時の物理環境データ収集 調査項目：水温、塩分、クロロフィル量、流向、流速、栄養塩量、底質 2. 重要魚種の資源調査 ・高知市沖小えび類：用船による水深別分布調査に基づいた漁況予測（漁期前、3 月）				
<b>【成果目標】</b> ・底びき網漁場における底魚資源の分布と、その物理環境の関係から資源の変動要因を明らかにする。 ・資源を継続利用するための効率的なモニタリング手法開発も念頭に置いて調査を展開する。				
<b>【期待される効果】</b> 底魚資源を安定的に管理する手法の策定が可能になることによって、本研究の結果は小型底びき網漁業及び沖合底びき網漁業の安定経営につながる。				